

新発田市 平成 28 年度 第 2 回定例記者会見

1 日 時 平成 28 年 5 月 10 日（火）午前 11 時

2 場 所 3 階応接室

3 内 容

○定住促進ための住宅支援制度を拡充

○「食のアスパラ横丁、味めぐり」

○「ふとっパラプレミアム」限定販売

○「堀部安兵衛生誕地まつり」

○荒川剣龍峡山開き安全祈願祭

○二王子岳山開き安全祈願祭

○「しばた軽トラ市」

○ライトミュージックコンサート

○めざせ 100 彩「しおかぜウオーク」

○「春季趣味の展示会」

○「手工芸展・水墨画展」作品募集

あいさつ

○田植えも終わりに近づいているようです。私が農業をやっていた頃は、この時期はまだ田植えの時期ではなかったのですが、今は連休を利用して、稲に相談して農業するのではなく、自分のスケジュールに合わせざるを得ないようです。それでも、天気が続けば、すぐに活着してくれるだろうと思います。

○改めて新発田は「湖面に浮かぶまち」だと思います。沼地を開拓した坂のないまちですから、ある意味バリアフリーのまちとも言えます。国道 7 号線と田んぼの段差がほとんどありません。

○飛行機で上空から見ると分かりますが、湖面にまちが浮いたような様子で、この時期の新発田はたいへん素敵だと思っています。

○熊本では、今、大変な状況になっています。東日本大震災から 5 年で、その傷跡も癒えないところに、「まさか」というようなことが起きました。

- 当市の職員も、全国市長会からの要請に応じて、建物の税務の関係の業務に協力するため、熊本へ行ってきました。職員の話を知ると、行政側もまだ完全に対応できていないという印象とのことでした。
- 一日も早く復興・復旧されますことを祈念しています。

それでは、会見項目の説明とします。

最初に、定住促進のための住宅支援制度を2つ紹介します

- 移住・定住を促進するため、本年度から2つの住宅支援制度の内容を拡充しました。
- 1つ目は、住宅を取得する転入者に補助金を交付する「住宅取得補助金」です。
- 平成25年度の開始以来、対象を中心市街地の人口減少率が高い地域に限定していましたが、これを広く市内全域の人口減少率が高い地域に拡大しました。
- 当初は、中心市街地の空洞化を背景に、まちなかへ人口を誘導する意図がありましたが、市外から人を呼び込むことが重要であると考え、対象地域を拡大して取り組むこととしたものです。
- 2つ目は、転入者の家賃を補助する「U・Iターン家賃補助制度」です。
- これは、県のモデル事業を活用して、昨年10月に開始したのですが、市独自の取組として、より利用しやすい要件に改めました。
- 具体的には、年齢条件を40歳未満から45歳未満に引き上げるとともに、県外での勤務経験の要件を廃止し、雇用条件を常用雇用者以外の方にも拡大するなど、大幅に要件を緩和したものです。
- 月額家賃の3分の1を最長2年間補助するので、まずは、この制度を利用して新発田に住んでいただき、先ほど紹介した「住宅取得補助金」で家を持っていただくという流れを作りたいと考えています。

○この2つの制度により、移住者・定住者がさらに増加するものと期待しています。

次に「食のアスパラ横丁、味めぐり」とアスパラの限定販売について

○今年もアスパラの季節がやってきました。市内60店舗が個性豊かなアスパラ料理を提供する「食のアスパラ横丁、味めぐり」が既にスタートしており、5月31日（火）まで開催しています。

○今年は、イベント開始から10年目を迎えました。シールを集めて応募すると賞品が当たる「スタンプラリー」では、10周年の感謝の意を込めて、「缶ビール1年分」や「月岡温泉ペア宿泊券」など、例年にも増して豪華な賞品を用意しています。

○また、新メニューが多いことも、今年の特徴だと聞いています。ぜひ、多くの方に参加していただき、新発田のアスパラを堪能していただきたいと思っています。

○そして、今年も、太さが500円玉ほどもある極太アスパラガス「ふとっパラプレミアム」を、5月の1か月間限定で販売します。

○「ふとっパラプレミアム」は、春先にごく少量しか採れないため、市場に出回ることがほとんどなく、「幻のアスパラ」と言っても過言ではありません。

○ただ大きいだけでなく、新発田のアスパラの特徴である甘さと柔らかさを兼ね備えており、味の面でも満足いただけるものと思います。

○本日は、会場に実物を用意しましたので、終了後、お持ち帰りいただき、ぜひ、実際に味わっていただきたいと思っています。

次に「堀部安兵衛^{たけつね}武庸 生誕地まつり」について

○「堀部安兵衛^{たけつね}武庸 生誕地まつり」は、毎年、安兵衛の生まれ月とされる5月に様々な催しを開催するものです。

- 今年も、安兵衛の足跡をたどるバスツアーや、「生誕地杯」と銘打ったスポーツチャンバラの大会など、バラエティに富んだ催しがそろっています。
- 堀部安兵衛を顕彰する市民団体「武庸会」^{たけつね}の発足 100 周年を契機に、平成 24 年に始まったこのイベントも、すっかり定着した感があります。
- 今後も、様々な機会を通じて、新発田出身の英雄・堀部安兵衛を内外に発信していきたいと考えています。

次に、「山開き安全祈願祭」と赤谷林道について

- まず、「山開き安全祈願祭」を 2 つご紹介します。
- 1 つ目は、5 月 22 日（日）に行う荒川剣龍峡登山道の「山開き安全祈願祭」です。
- 剣龍峡は、うっそうとした木立^{こだち}の間を澄み切った清流が流れる、市内でも屈指の自然探索スポットです。
- 京都の庭師・田中泰阿弥^{たいあみ}が、清水園の修復のため新発田を訪れた際に立ち寄ったとも言われており、巨大な岩石や滝などが織りなす景色の美しさは、まさに「幻想的」という言葉がぴったりです。
- 2 つ目は、5 月 29 日（日）に行う二王子岳の「山開き安全祈願祭」です。
- 二王子岳は、霊峰として古くからの信仰の対象であるとともに、青空をバックに雪を頂いた美しい姿は、新発田のシンボルとなっています。
- 年間 1 万人の登山者が訪れる人気の山です。今年も多くの登山者でにぎわうものと期待しています。
- そして、当市の山岳観光資源といえば、これらの山々に加え、何ととっても湯の平登山道、そして秘湯中の秘湯、湯の平温泉があります。
- 現在、赤谷林道への一般車輛の乗り入れが禁止されているため、湯の平温泉までは、徒歩で約 4 時間かかります。

- このため、登山愛好者をはじめ、多くの皆様から一般車両の通行を望む声をいただいています。
- 当市としても、広く県内外から足を運んでいただける、大切な観光資源であると考えていますが、安全性確保の観点から一般車輛の通行は難しいため、現在、タクシーなどを使った送迎ができないか検討を進めているところです。
- 今年は、7月の開山を待って、まずはタクシーが安全に走行できるかを検証し、その結果を踏まえ、来年度には、十分な安全策を講じたうえで、タクシー送迎を行えるよう、準備を進めたいと考えています。
- 湯の平の送迎については、来年に実証実験をしたいと考えています。そのために今年は準備をしたいと考えています。一度行ってみる価値はある秘湯中の秘湯です。加治川の源流の、あのコバルト色の水を見るだけでもいい。
- そして、温泉は山から吹き出ているお湯と加治川の水を合わせて、温度を下げて入る、実にすばらしいものです。
- 本格的な登山シーズンを迎えますが、登山者の皆様には、安全に十分留意いただき、新発田の山々を楽しんでいただきたいと思います。

このほかの情報としては、恒例の「しばた軽トラ市」やアマチュアバンドの祭典「ライトミュージックコンサート」、藤塚浜周辺を歩く「しおかぜウォーク」のほか、市民団体が日頃の成果を発表する「春季趣味の展示会」、作品を募集中の「手工芸展・水墨画展」があります。

ぜひ、一つでも多く記事に取り上げていただき、新発田市を盛り上げていただきたいと思います。

定例記者会見質疑応答概要

「食のアスパラ横丁、味めぐり」について

産 経 今年で 10 年目であるが、これだけ長く続いてきたことについてどう思うか。

市 長 新発田のアスパラは「適地適産」であると思う。菅谷で転作作物として始まって、中田などの地区で団地化した。甘くて、やわらかく、何と云っても「夏秋採り」ができる特徴がある。農家の方は一定の所得が確保でき、頑張っているのも、これをもって盛り上げていこうと思っている。「アスパラはメインにならない。添え物で、まちの主役にはなれない」という方もいるが、逆に何にでも合わせられる。大事にしていきたいと思っている。

産 経 アスパラは、県内では第 1 位の出荷量ということだが、全国的にみるとどうか。

市 長 大部分は、九州と北海道である。九州のものが終わり、北海道のものが始まる、ちょうどその端境期に新発田の収穫期がある。長野県もアスパラの産地で、新発田と競合する。その時期にスーパーに行くと、長野のアスパラはあるが、新発田のものはない。ほとんど東京へ行ってしまうからである。地元の方がなかなか食べられないが、東京の市場ではいい値段で、早く売れてしまうということである。

産 経 地元の方は、どこで採れたアスパラを食べることが多いのか。

市 長 スーパーのものであったり、農家からもらったりすることもあると思う。

住宅支援制度の拡充について

- 産 経 対象地域が多いが、市内でどのくらいの割合を占めているか。
- 市 長 ほとんどである。平成7年と平成27年の国勢調査を比較して、10%以上減少している地域を対象としている。今までは、基本的には中心部の活性化を目指していた。周辺部は住宅が増えているが、コンパクトシティを目指そうとしているのに、中心部の人口がなかなか増えない。そこで、この制度に取り組んだが、うまくいかなかった。また、田舎へ住むのだから、本当の田舎の方がよいという要望も多い。そこで、まちの中心部へ誘導するというよりも、新発田市全体の人口減少を止めるという方向へシフトして、制度を拡大した。現在、対象となっていないのは、本庁地区の一部と周辺部の2地区だけで、ほぼ全域と考えてよい。
- 朝 日 補助対象は、Uターンだけではないのか。
- 市 長 「住宅取得補助金」も「家賃補助」とも、市外からの転入者であればよい。「家賃補助」では、敷金・礼金なども補助する。
- 朝 日 PR活動とはどんなものか。
- 市 長 県が、県内の市町村といっしょに、表参道の「ネスパス」などで、相談会を開催するので、そこに参加する。また、7月からは「ふるさと回帰支援センター」に、新発田のブースを常設し、PRしていきたい。
- 産 経 市外の方に最もPRしたいのはどの点か。
- 市 長 昨年までは、新発田市全体をPRしていたが、本年度は、他市町村にはないような手厚い住宅支援制度を設けたので、これを前面に出していきたい。
- 朝 日 この支援制度は、県内でも手厚い方ということか。
- 市 長 ここまで手厚いかどうかは別として、制度そのものは、他市町村と比較しても劣るものではないと考えている。

産 経 どの部分が手厚いのか。

市 長 例えば、「家賃補助」は、県のモデル事業で始めたものだが、実施している市町村の対象者は「県外からの転入」である。当市では、「市外からの転入」を対象とした。「住宅取得補助金」でも、基本を 100 万円とし、子育て世代であればプラス 40 万円、新発田の市内の業者が施工すればさらに 10 万円加算、さらに親元などへの近居などの場合は 30 万円加算し、最高で 180 万円の補助とした。

日 報 市外からの転入を対象とするということで、隣接市町村からの反応はどうか。

市 長 地域間連携と言いながら、一方では都市間競争も現実としてある。一方に手厚い制度があれば、対抗策として同様の制度を設けるかもしれない。東京が日本全国から人口を吸い上げる「ブラックホール」であるように、新発田は地方の「ミニ・ブラックホール」の側面がある。制度が加われば、そこに拍車がかかるのは目に見えている。

日 報 ふるさと納税の返礼品のように、新制度の競争にはならないか。

市 長 地方創生、取り分け人口問題を取り上げると、ある意味「福祉合戦」にならざるを得ない。それが政治の流れになっているのではないか。決していいことではないが、避けては通れない。じっとしては、人口が増えるわけがない。自分たちの懐具合と相談しながら、まちづくりをしていかなければならない厳しさはある。

N H K この住宅支援制度は、昨年度から始めたものか。

市 長 「家賃補助」は昨年度から、「住宅取得補助金」は、平成 25 年度からである。

N H K 「家賃補助」は、昨年度利用者がいたか。

市 長 残念ながらいなかった。

赤谷林道について

朝 日 今年から実証実験をしてくれという方もいると思うが、時間をかける理由はあるのか。

市 長 現在は林道であり、管轄は下越森林管理署である。タクシーを運行するとなると、市道との併用にしなければならない。そのために、議会に諮ったり、測量をしたりと時間がかかる。事故があれば、行政の責任が問われるので、やらなければならないことは、きちんとやっておかなければゴーサインは出せない。

朝 日 状況によっては、補修も必要になるということか。

市 長 毎年必要である。雪が岩盤に染み込み、崩れることがあるため、春には必ず道路を点検する必要がある。また、落石がないように、危険個所は事前に崩しておくというような作業は、毎年しなければならないの。カーブのきつい個所へのガードレールの設置などもやらなければならないと思う。

朝 日 予算がかかるのではないか。

市 長 その通りである。また、新発田駅からタクシーを運行すると相当な金額がかかる。それに対する一定の補助なども考えなければならない。しかし、一般の方には4時間は少しきつい。もともと50台くらいの駐車場があって、掛留沢までは車で行くことができていたので、以前のことを知っている方からは、一日も早くという要望がある。

「ふとっパラプレミアム」の販売について

N H K 販売イベントなどはないのか。

市 長 期間中はずっと販売している。

産 経 「幻のアスパラ」を推している自治体はあるか。

市 長 ないと思う。数千本に1本くらいの割合と聞いている。

歴史資料館について

- 北陸工業 まちづくり総合計画の「実施計画」に掲載されている「複合・生涯学習施設（歴史資料館）」とは、施設としてどういうコンセプトを持つものか。
- 市長 それを含めて検討する予定としている。関係者からは、文化財が散逸してしまうと言われており、理解はできるがそう簡単ではないと考えている。